



(電子版)

info@jikosoren.jp

2020年 第44号 2020年12月23日

発行：自交総連本部

〒110-0003 東京都台東区根岸2-18-2-201

tel. 03-3875-8071 fax. 03-3874-4997

タクで月収10万円未満になったが56%

21春闘アンケート コロナ危機の影響深刻

21春闘アンケートの集計結果を、コロナ関連の質問と答えを中心に紹介します。

集計は、2020年12月15日現在、17地方3817枚の回収でした。前年より1地方増え593枚減っています。

平均年齢は58.3歳で前年より0.2歳若くなりました。年齢構成は、前年とほとんど変わらず60歳以上が52%で、40歳未満は6%しかいません。

図1 回収率、平均勤続・経験・年齢

年	回収 地方	回収 枚数	回収率	平均勤続 (年)	平均経験 (年)	平均年齢 (歳)
2018年	19	5,686	44.5%	11.4	14.1	57.7
2019年	16	4,410	37.3%	13.5	14.6	58.5
2020年	17	3,817	47.4%	11.8	14.4	58.3

図2 職種別の勤続・経験・年齢の推移

職種	平均勤続 (年)			平均経験 (年)			平均年齢 (歳)		
	2018	2019	2020	2018	2019	2020	2018	2019	2020
ハイタク	11.3	13.5	11.8	13.9	14.4	14.4	57.8	58.8	58.7
技職	12.4	12.5	15.2	22.9	24.9	25.7	45.0	47.1	47.2
自教	19.7	21.0	24.0	22.7	24.3	23.6	51.7	52.6	53.3
バス	11.0	10.2	9.1	17.1	16.5	12.4	54.3	53.3	50.4

賃上げ要求3万円超、職場の不満は①賃金②退職金③福利厚生

賃上げ要求は平均3万745円（前年2万4495円）でした。

職場での不満では、①賃金が安い、②退職金がない、③福利厚生が不十分、④職場なくなる不安、⑤労働時間長い——が上位です。

定時制など非正規の労働者の場合は、契約更新の不安が多くなっています。

職種ごと、地方ごとに、かなり違いがありますので、自分のところの要求をよく確かめる必要があります。

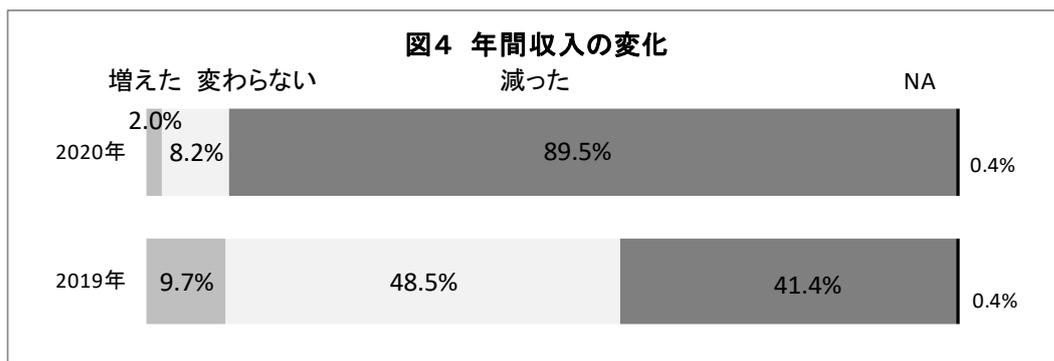
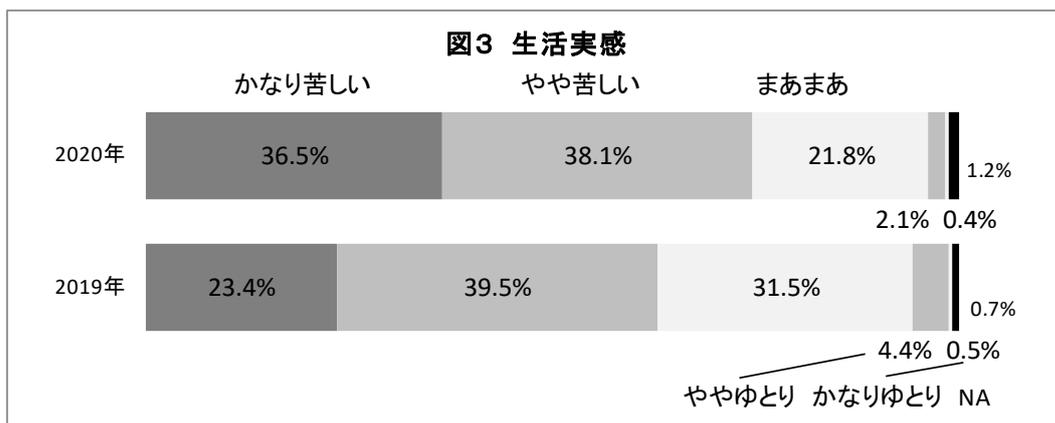
政府に対する要求では、①白タク合法化反対、②最賃引き上げ、③年金充実、④消費税引き下げ、⑤景気対策——が上位でした。

コロナ関連の回答（ハイタクのみ）

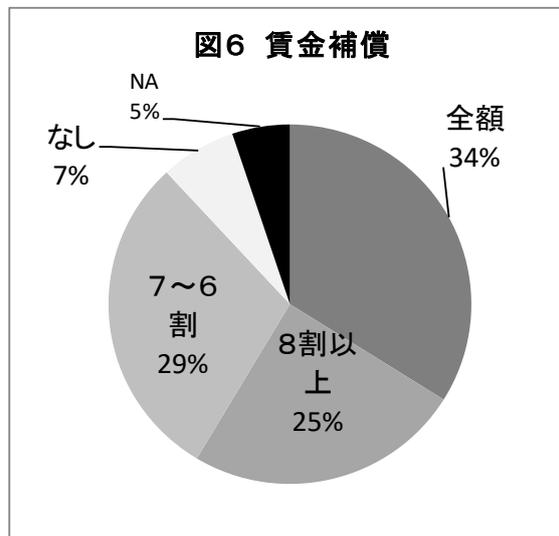
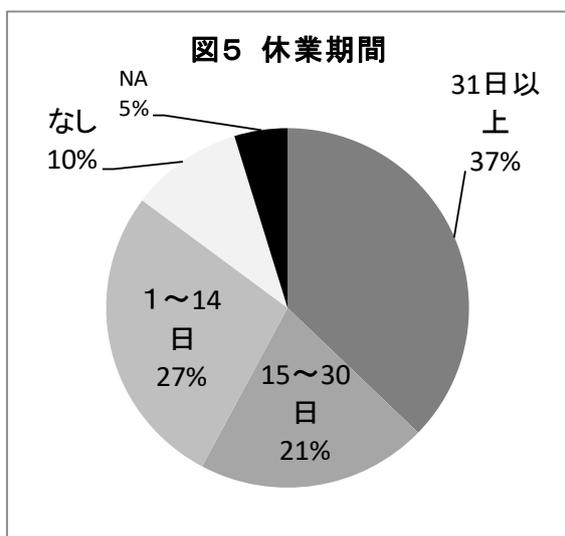
コロナ関連の質問と回答は次のとおりです（この項の回答はハイタク運転者のみ3631枚を集計）。

生活実感では、「かなり苦しい」と「やや苦しい」を合わせて75%の人が苦しいと答えています。これは前年の63%から大きく増えています。

年間収入の増減では、減ったが90%になり、前年の41%の倍以上になりました。



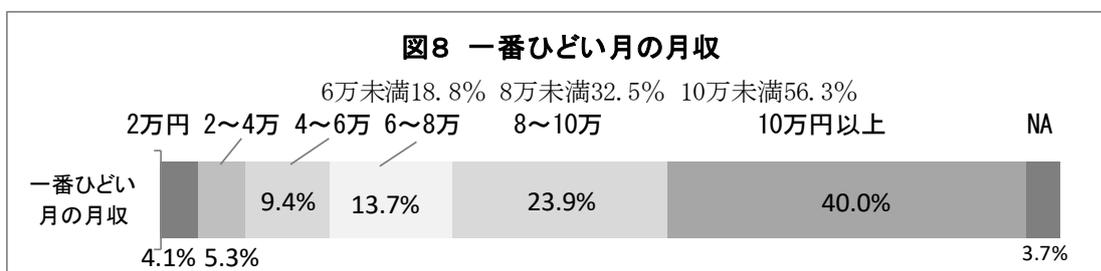
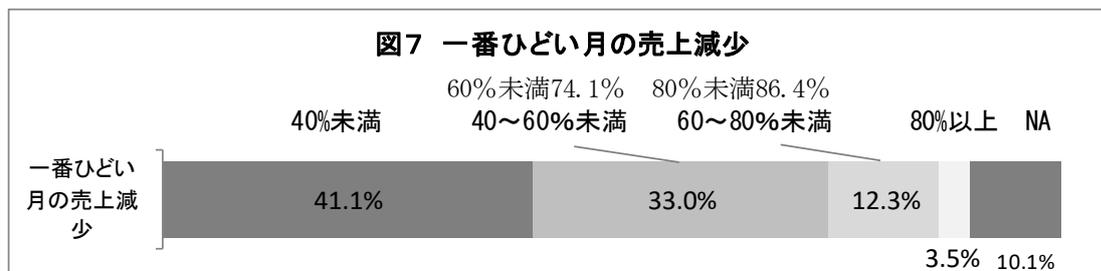
休業については、91%の人が休業したと答え、休業なしは10%でした。その際の賃金補償は、8割以上が59%で、なしは7%でした。



営業収入では、一番ひどいときの月の売上げが6割未満になった人が74%、4割未満が41%いました。

その時の月収は、10万円未満になった人が56%、6万円未満が19%、2万円未満という人も4%いました。

コロナ対策の要望では、①休業補償10割69%、②雇調金拡充61%、③PCR検査拡充52%、④感染防止33%、⑤衛生資材備蓄29%が上位でした。



労働者の声“VOICE!”——生活が苦しい、精神的な影響も

自由記載欄“VOICE!”では、痛切で生々しい声が寄せられました。

- 基本的な生活（家賃・光熱費・通信費）すら支払いが苦しい。遠くない将来の破綻が怖い（東京）
- 1か月8万円しかない月があり、死にそうだ！（東京）
など、苦しい実態を訴える声があり、
- 配属3か月目なので稼げない。仕事を覚えるまでもたない（東京）
と、新人にはとくに厳しい実態が浮かんでいます。
- 私たち労働者には大変な苦痛とストレスの毎日です（東京）
- この仕事、必要ないんじゃないかと思うことが最近、多々あります（東京）
- 仕事に打ち込めない。気持ちが無気力（東京）
など、精神的にも大きな影響があり、コロナ鬱（うつ）も心配される状況です。

休業手当、十分ではないが助かったと感謝の声も

多くの事業所で、雇調金を活用した休業が行われましたが、

- 休業補償でるのが遅い（埼玉）
- 休業補償賃金が少なく不満（愛知）
など十分でないとの声がある一方で、
- 思っていたよりもらえて助かりました（埼玉）
- 通常の生活までとはいかないが大変助かっている（東京）

- 今充分です。ありがとうございます（東京）
など、助かったとの声も多く、交渉に奮闘した組合への感謝の声もありました。
- コロナが終わるまで休業補償をして、しっかり減車をしてもらいたい（東京）
と、休業の需給調整効果の継続を求める意見もありました。

不安定な歩合給の問題点が浮き彫りに

その他の賃金・労働条件に関しては、

- 一時金をもっと多く出してほしい（神奈川）
- 基本給が歩合で変化するのには、基本の意味がない（東京）
- 安定した賃金がほしい。歩合じゃなく固定給！（東京）
など、コロナで急減した歩合給の不安定な問題点を指摘する声が多くあり、
- 濃厚接触者になったりして、やむを得ず仕事を休まなければならない場合、何の補償もなく会社から有休をとるように言われた（神奈川）
として、濃厚接触者の特別休暇や休業補償を求める意見もありました。
- 感染防止を第一に、社員の健康と安全を考えるべき（埼玉）
- 相変わらずマスクをつけずに乗車してくる人が多すぎる（東京）
との感染防止についての要求や不安の意見もありました。

会社も政府も真剣な対応を

会社に対しては、対応が十分でなかったところでは、

- 経営者としてもっと勉強してほしい。休業補償等についても組合が言わなければすべて最低補償で済ませようとするなど従業員を粗末に扱すぎる（神奈川）
- 各タクシー会社による休業補償の格差が大きいのはなぜなのか？（静岡）
- もうちょっと乗務員のことを考えないと、この仕事は終わりです（東京）
などの不満と要求が厳しく指摘されていました。

政府に対しては、

- 政府による補償が全くないのは腹に据えかねる（埼玉）
- セイフティーネットは、せめて生活保護のレベルが維持されるべき（東京）
- 国民が苦しいときにこそ、国が生命・財産を必ず守る安定した生活の確保の為に財政を広く出すべき（東京）
との要求が出され、とくに10万円の定額給付については、
- 一度だけの給付では、全く足りてない（山形）
- 10万円の支給は実質的な被害を受けている人にとっては焼け石に水（埼玉）
- 10万でなく100万ぐらいの支給がないとつらい（東京）
- もう一度全国民に一律10万円（東京）
など、もう一度給付を求める声が非常に多くありました。
- タクシーに対する補償がない。対策からこぼれおちる業界が多い（東京）
- 消費税の一時凍結！ GoToキャンペーンの即時停止、その分を該当業者に現金支給（東京）
- GoToでなく、PCR検査の拡充で誰でも安心して出かけられるように（鹿児島）
など、困っている国民に冷たい政策への指摘がみられました。